

オンライン講習会のご案内

コミュニティで、できる、つながる！

ひきこもる人との関わりかた

【日時】全3回

1回でも
参加可

Zoom
で視聴

#1 2022年10月27日(木) 19:30~21:15

「ひきこもりの理解」

出演：板東充彦 ゲスト：倉光洋平

#2 2022年11月17日(木) 19:30~21:15

「ひきこもりの支援」

出演：板東充彦 ゲスト：ヨン・ロザリン

#3 2022年12月7日(水) 19:30~21:15

「支援者と当事者性」

出演：板東充彦 ゲスト：飯田敏晴

現場で
役立つ

見逃し
配信あり

【スケジュール】

講義①+講義②+対談+質疑応答(若干の延長があるかもしれません)

【参加条件】

臨床心理士、公認心理師、ひきこもり支援者・関係者の方(参加者のうち臨床心理士の割合が3分の1を超えた場合は、臨床心理士ポイント申請の対象となります)

【参加方法】

Webサイト「遠見書房の書店」からご購入ください。<https://tomishobo.stores.jp/>で「ひきこもる人との関わりかた」を検索するか、下記にアクセスしてください。

単回1,000円/全3回通し2,400円/全3回通し+書籍『ひきこもりと関わる』セットで4,551円(価格は税込み、書籍は15%割引です)

【主催・事務局】

株式会社 遠見書房

このオンライン講習会は、ひきこもる人たちへの理解を深め、ひきこもり支援に関わる際に役立つ工夫やアイデアを共有することを目指しています。

ひきこもりの人への支援では、まずご本人やその家族に関わるのが難しいことも多く、相談室で待つだけではなかなか支援を展開できません。一方で、積極的に関わろうとすることが当事者や家族を引かせてしまうという場合もあります。それでは、どのようなアプローチが有効なのでしょう。

第1回では、公益社団法人青少年健康センターの倉光洋平先生をゲストに迎え、支援の前提となるひきこもり者の心理についての理解を深めます。

第2回では、秋田大学大学院医学系研究科/NPO法人光希屋(家)主宰のヨン・ロザリン先生をゲストに迎え、ひきこもり支援の現場の実際や工夫について検討します。

第3回では、立教大学心理学部特任准教授の飯田敏晴先生をゲストに迎え、コミュニティ心理学の視点から、支援、当事者、当事者性、そして支援者をどう捉えるかを考えます。

全3回のホスト役は、2022年8月に弊社より出版した『ひきこもりと関わる』の著者であり、10年以上にわたりひきこもり者のサポート・グループを運営してきた板東充彦先生(跡見学園女子大学心理学部准教授)です。

*この講座は『ひきこもりと関わる』が副読本となっております。興味のある方は、ぜひこの機会にお読みいただけると幸いです(チケットと一緒に割引価格で購入できます)。

開催日と内容

	日 時	出演者	テーマ
第1回	2022年10月27日(木) 19:30～21:15	板東充彦(跡見学園女子大学心理学部准教授) 倉光洋平(公益社団法人青少年健康センター)	「ひきこもりの理解」
第2回	2022年11月17日(木) 19:30～21:15	板東充彦 ヨン・ロザリン(秋田大学大学院医学系研究科/ NPO法人光希屋(家))	「ひきこもりの支援」
第3回	2022年12月7日(水) 19:30～21:15	板東充彦 飯田敏晴(立教大学心理学部特任准教授)	「支援者と当事者性」



板東充彦(ばんどう みちひこ)

1997年、北海道大学法学部卒業、2006年、九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻心理臨床学コース博士課程単位取得満期退学、2009年、博士号(心理学)取得。現在、跡見学園女子大学心理学部准教授。公認心理師、臨床心理士。日本臨床心理士会ひきこもり専門委員会委員。日本コミュニティ心理学会常任理事。日本人間性心理学会理事。研究テーマは、ひきこもりのグループ・アプローチ。コミュニティ心理臨床。



ヨン・キム・フォン・ロザリン

秋田大学大学院医学系研究科 衛生学・公衆衛生学講座、NPO法人光希屋(家)。2013年に秋田県大仙市にひきこもりの居場所「ふらっと」を立ち上げ、ひきこもりの仲間と一緒に運営し、2017年に大仙市から子ども・若者総合相談センターを委託された。「ふらっと」の活動は令和2年度元気なふるさと秋田づくり顕彰事業、第56回社会貢献者、令和3年度土居健郎記念賞に表彰され、秋田大学発ベンチャーに認定された。



倉光洋平(くらみつ ようへい)

臨床心理士。公認心理士師。公益社団法人青少年健康センターの事業管理部長。大学院時代では統合的心理療法の学びを中心とし、“ひきこもり”を研究テーマとし、以後当法人を中心に多面的・重層的な臨床実践を続ける。本人や家族への個別面接・アウトリーチから、居場所活動・家族会、中間的就労・地域づくり・普及活動までミクロからマクロの関係のつながりの目への臨床活動を行う。趣味は一人で戦国時代の古戦場巡り。



飯田敏晴(いいだ としはる)

千葉市立稲毛高等学校卒。明治学院大学文学部心理学科及び同大学大学院心理学研究科博士後期課程修了。博士(心理学)。現在、立教大学現代心理学部特任准教授。日本コミュニティ心理学会常任理事。主に保健・医療領域における心理職として従事。研究テーマは、“助けを求める”と“心の健康教育”に関わる心理学的研究。



presents

オンライン講習会のご案内

遠見書房のひきこもり関連の本



ひきこもりと関わる

——日常と非日常のあいだの心理支援

(跡見学園女子大学心理学部准教授) 板東充彦 著

本体 2,300 円 (+ 税) 四六判並製 224 頁
C3011 ISBN978-4-86616-148-8

長く社会との関わりを断っているひきこもり者といかに関わり、サポートできるか。ひきこもり者のサポート・グループを運営し、地域のセルフヘルプ・グループ代表者と協働してひきこもり支援を展開してきた、心理臨床家によるひきこもり支援論です。

関わるのが難しい人といかに関わるか、
心理臨床家によるひきこもり支援の実践



ひきこもりの理解と支援

——孤立する個人・家族をいかにサポートするか

(明星大学名誉教授) 高塚雄介 編

本体 2,600 円 (+ 税) A5 判並製 176 頁
ISBN978-4-86616-119-8 C3011

本書は、様々な場所でひきこもり支援に関わってきた執筆者らが、それぞれの立場からあらためてひきこもりとその支援を考えたものである。ひきこもり当事者・家族のニーズと支援機関が提供できる支援とのずれを埋めるためにはどうしたらよいか。当事者・家族の心情や状況を理解したうえでどのようなサポートができるのか。支援者がぶつかる壁を乗り越えるための指針となる一冊。

* ロザリン先生「第9章 ひきこもりの支援 研究と実践の循環」掲載



ひきこもり、自由に生きる

——社会的成熟を育む仲間作りと支援

(和歌山大学名誉教授, NPO ヴィダ・リブレ理事長) 宮西照夫 著

本体 2200 円 (+ 税) 四六判並製 232 頁
ISBN978-4-86616-115-0 C3011

大学、病院、NPO で40年にわたってひきこもり回復支援に従事してきた精神科医が、ひきこもりをもたらす社会背景や病理、ひきこもりのタイプを整理し、ひきこもり者に届く支援の実際を豊富な事例とともに語ったものである。ひきこもり者が「自由に生きる」ことを取り戻すために何ができるのかを模索した実践的援助論。